

令和7年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和7年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	135	48	40	6.2	6.0	学校	466
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	158	59.9	44.2	48.9	44.2	49.8	4.4	4.7	7.6	4.2	3.7
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	178	61.1	43.1	48.1	41.3	42.6	5.9	3.7	12.3	4.3	6.9
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	150	61.3	56.9	53.0	57.9	59.9	10.5	3.1	10.1	6.4	5.9
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	60.3	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
3年	学校	158	107.0	101.0	139.9	94.1
10月20日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

令和7年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○大阪市英語力調査(GTEC)

本校のCEFR A1レベル相当以上の中学3年生の割合は55.5%で、大阪市の平均60.3%を4.8ポイント下回っている。各観点別のトータルスコアでは

<読むこと【リーディング】>

全体の平均スコアでは市平均117.74に対し本校は107.0ポイントとなり、10.4ポイント下回っている。CEFR-JはA1.2に分布。

<聞くこと【リスニング】>

全体の平均スコアでは市平均110.2に対し本校は101.0ポイントとなり、9.2ポイント下回っている。CEFR-JはA1.2に分布。

<書くこと【ライティング】>

全体の平均スコアでは市平均146.4に対し本校は139.9ポイントとなり、6.5ポイント下回っている。CEFR-JはA1.2に分布。

<話すこと【スピーキング】>

全体の平均スコアでは市平均98.4に対し本校は94.1ポイントとなり、4.3ポイント下回っている。CEFR-JはA1.2に分布。

【結果】

- ・リーディングでは、意味のまとまりごとに区切りながら読む力はついてきている。しかし大まかな流れを理解するために、1文1文をつないで、後戻りせずに全体のイメージをつかむことができていない。
- ・リスニングでは、なじみのある表現には慣れてきている。英文を聞いて、意味のまとまりごとに区切りイメージすることができていない。
- ・ライティングでは1つのテーマで、3文ぐらいの英文で書くことはできているが、まとまりのある英文をかける生徒がすくない。
- ・スピーキングでは、基本的な言い回しを使って、日常のやり取りはできている。ただし自分の意見を述べる場面で、内容豊かに表現するレベルには至っていない。

【成果につながった要因】

- すべての技能で昨年度より上回っているが、中間層のレベルアップにはつながっていない。
- ・継続的にまとまった英文の音読を続けたことで、意味のまとまりを自分で確認できる生徒が増えた。
- ・授業やテストで自分の意見を英語で書く機会を少し増やしたことで、短文ではあるが、自己表現できる生徒が増えた。
- ・毎時間必ずまとまった英語を集中して聞く時間を確保したことで、リスニング力向上と発音改善に役立った。

【課題となっている要因】

- ・スピーキング力アップのためのスモールトークなどの実践時間が足りなかった。
- ・まとまった英文を読む力が不十分で、精読に時間がかかる。
- ・基本的な英語の語順にもっと慣れたうえで、表現力をさらに豊かにできるようにする。

【改善】

- ライティングとスピーキングの力を上げるための帯活動の充実をはかる。
- ・短文のみの理解から、まとまった英文の理解にするため、まとまりのある英文を毎時間読む時間を確保する。
- ・スモールトークを継続させるテーマを工夫し、日常化させていく。
- ・自分の意見を、短文から少しずつまとまった英文で書けるように、さらにその機会を増やし、添削していく。